

第六回關東保育研究大會記錄

運 營 本 部 員

關東保育研究大會は昭和二十三年五月、第一回が埼玉県浦和市に結ばれてから神奈川、茨城、千葉、群馬を経て、第六回が關東保育連合会と栃木県共催のもとに六月六、七、八日の三日間、名勝地日光町高等學校講堂に開催され、会衆四百五十、終始熱心に協力、多大の成果を挙げることができた。

本大会に当初、一都六県の各保育連合会によつて關東保育連合会が組織され「全保連」の一ブロックとし關東保育協議大会と銘打っていたが、群馬時代に保育實際上の研究に資したいという主催県の意途によつて、研究大会の名称は改められ且つその際、關保連規約第二条の全保連の一ブロックの存在の案項を削除し、關保独自の運営方で進められることになつたので、本年度も其の形式をもつて凡てが推進されたのである。

第一日（六月六日）

午後一時開会、先づ石塚副委員長開会を宣し、人見委員長の挨拶の後、西崎文部次官、小平県知事、市川県教育長、高橋社福会長、伊藤日光町長等の祝辞があつて、左記の県内保育功労者の表彰を行つた。

○足利幼稚園長 山越登濟 ○同教諭 花岡桜子 ○同園医 亀

山大三郎 ○日光輪王寺幼稚園教諭 小川ハル ○友愛幼稚園長
原田政七 ○同園医 谷源吉 ○今市幼稚園教諭 桑門春子 ○
日光電銅所幼稚園主事 篠原 式 ○同教諭 早川かめ ○佐
野育成館幼稚園 山田広吉 ○下野三楽園長 人見貞開 ○同保
母 關野フユ ○同 齊藤里代 ○鳥山保育園長 那須信受 ○
宇都宮保育園長 内田秀戒 ○足利西保育園長 内藤察純 ○矢
板保育園保母 天野重子
更に本大会の中心となつて努力してきた伴副委員長が経過を報告すると、人見委員長が座長席につき、次の協議問題に移つた。
一、各都県における就学前の幼児教育の実情如何
提出者、群馬県茂呂幼稚園の長谷川園長が説明に当り、各県代表から交し意見の発表があつた。
一、保育指導者の表成機關について、
(附)幼稚園及び保育所職員免許状の共通性如何
提出者の埼玉県鴻巣保育園根岸主任に代つて長沼同県代表が説明を行い、東京、茨城、千葉、群馬等から意見が述べられ、神奈川県代表の動議によつて、該免許状共通を可能ならしむるよう主務省に陳情することに決定、これで協議を打ち切つて日程の講演会に入り

山下俊郎教授の「幼児期における人格の発達」と題し一時間半にわたる講演があつて散会、なお七時から都県代表者会を輪王寺奥院に開催、大会運営等を中心として種々懇談をとげた。

第二日(六月七日)

九時開会、研究発表と討議

一、戸外保育のための環境のつくり方

発表者、神奈川県日本鋼管保育所長 宮下俊彦

二、幼稚園の準義務制について

発表者、千葉県朝夷幼稚園長 福原 知

三、幼稚園における智能テストについて

発表者、栃木県早蕨幼稚園教諭 和久田教子

四、基本的欲求と童話について

発表者、群馬県高崎幼稚園長 中島研六

五、幼稚園教育がどのように理解されているか

発表者、茨城県水戸市新萩幼稚園教諭 秋田智子

六、幼児童話の構成とその特殊性

発表者、埼玉県浦和幼稚園長 長沼依山

第六題は提案者の発意に依り「幼児の言語教育とお話の展開性」と改めた後、各提出者は、何れも真摯に研究内容を発表し、また、

来会者も熱心に質問討議を行い十一時これを終つて、大会の閉会式を挙行した、直後、レクリエーションの和楽踊りを一同で練習し、

午後一時から打ちそろつて山雨降り頻る中を日光の二社一寺を拜観し、更に三時から大会係の案内で、中禅寺コース、湯本コース、鬼怒川コース三班に分れ、観光視察に向い、其の夜は何れも温泉宿に

寛ぎ、なごやかに保育の反省と希望とを語り合った。

第三日(六月八日)

三班に分れ観光に参加した会員は心ゆくまで各々温泉に浴し、明日の保育向上を誓い合い正午散会した。(来年度の大会は東京都が主催の予定) (浦和幼稚園長 長沼依山)

(28頁より続く)

その夜おそく私たちはハートフォードへかかりました。週末ごとに私はこのハートフォードの病院からはなれて、文化的に豊かなニウイングランドの要所を尋ねることにしています。

夢は枯野を駆けめぐるると云いますが、健康な私たちは、アメリカが生れ出でたこのニウイングランドの緑の森と原野と走りぬけて、元氣いっぱい、将来の日本に役立ちそうな資料をあつめていきます。東京育ちの私には暑いテキサスより涼しい北の方が体にはよさそうです。では又。

(一九五三年六月十一日)

◆お断り◆

西本情先生の「保育者の精神衛生」(前月号続き)は、頁数の都合により十二月号に掲載させていただきます。